

平成28年度 第1回 明和町総合教育会議 議事録

1. 日時 平成28年5月25日(水) 19:20~20:40
2. 場所 明和町役場2F 大会議室
3. 発言者 明和町長 中井幸充
明和町副町長 寺前和彦
明和町教育委員 竹本留美子、山路克文、作野郁子
明和町教育長 西岡恵三
事務局
総務課：課長 西田一成
教育総務課：課長 西口竜嘉、係長 西村正樹、係 荒木隆伯
こども課：課長 世古口哲哉

4. 概要

議題1

明和町小学校区編制について

【教育長】

明和町小学校区編成について、事務局より考え方の説明を求める。

【事務局】

資料説明

【町長】

追加資料であるが、どうしても既存の学校区をベースに考えてしまう。もっと真っ白な形で考えて欲しい。

【教育委員】

今の現実を鑑みずに新校区を考えるとすることは、逆にこれからのまちづくりをどうしていくかを考えることになってくる。具体的に何年後に計画して実行するのかを考えていかないと、議論が長引けば人口の状況も変わってくる。いつまでに結論を出すのか仮でもよいので決めていかねばならないのでは？

【町長】

H36年に耐用年数がきている大淀小だけ早急に手を打たねばならない。逆算するとH32年までに構想を決めなければならない。そうするとH30年には具体的な方針を出さなければならないと考えている。方針を検討するのは今年と来年である。

【教育委員】

校区再編成の議論はこの総合教育会議の場だけなのか？

【町長】

中学校、大淀小学校の移転、建て替えの話は公共施設検討委員会で検討されており、議会にも話が出ている。ただし、校区再編成については、まず教育委員会と議論してたたき台の案を作成すべきと考えている。

【教育委員】

資料の2校区案について、既存の上御糸小学校が活用されているが、事務局として財政的なことも考え既存の学校も活用した案を作成したのでは？

【事務局】

案として提示したのみで、必ずしも資料のポイントで決定したわけではない。誤解を招く可能性があるとのことなので、既存学校を活用しない場所に新たに建設する案で資料を修正します。

【教育委員】

明和町の人口のことを考えると2校区か。地域全体が前向きに考えてくれれば何とかなのではないか。最終的に2校区であるが、過渡期として3校区、4校区の状況もあると思う。

【町長】

大淀小学校だけでなく下御糸小学校も浸水区域であり、2校をセットで考える必要がある。

【教育委員】

最大の目的が津波対策であるのであれば、多少コミュニティが崩れるのは仕方ない。自治会も新しい世帯が入ってきて、他地域から人が住みだしてきてコミュニティも新しくなっているのだから、旧コミュニティにこだわる必要はないのではないか。

【教育長】

住民から町がこれからどのように町づくりをするのかを明確に打ち出す必要があるとの意見もいただいた。

【事務局】

事務局としてのイメージは校区再編の検討委員会を立ち上げ、大筋の方針を作成した上で住民に説明をしていく流れを考えている。

【副町長】

町民がどのような意向を持っているのか把握した上で、議論するのも一つの考えである。

【教育委員】

校区を考えるにあたり、人口動態やアクセスから皆が納得できる案を作成して住民に提示すべき。

【教育委員】

いきなり住民に再編成案を提示しても受け入れ難いかもしれない。校区再編成が動き出していることをアピールするため、途中経過を住民に伝えることも重要ではないか。

【教育委員】

議会で話があれば議会だよりや行政放送等でも少しは住民に伝わるのではないか。

【事務局】

6月議会に今回の資料を配布する予定です。

【町長】

今回の総合教育会議では、校区再編成についての考え方として、改めて大淀小学校と下御糸小学校の浸水区域外への移転と、町の総合計画にもあるように中央線を町づくりの基幹とするという方針で進めるという意味統一ができたと考える。それに基づき今回の資料等を修正し、12月には校区再編成の検討委員会を立ち上げたい。

【教育委員】

了承した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成28年5月25日

議事録署名人 竹本 陽美子

議事録署名人 水沼 克文